

# 瀬田川プランクトン調査結果速報

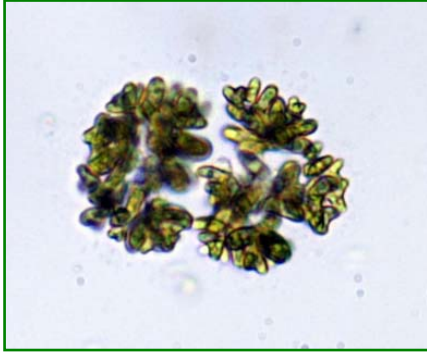
～第33報～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
生物圏担当

平成19年11月12日

## 1. 最も数が多かった種類(優占種)

植物プランクトン第1優占種

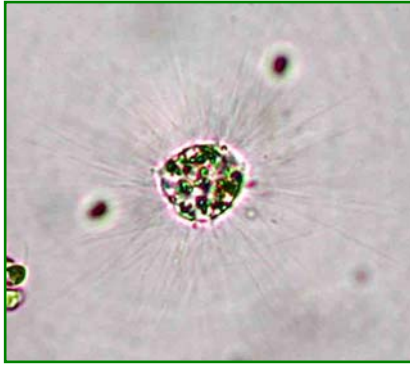


その他の緑藻

緑藻類

各細胞は楕円球形および心臓形であり、32～64個の細胞よりなる群体を形成する。

動物プランクトン第1優占種



*Acanthocystis chaetophora*  
(アカントキスティス)  
太陽虫類

体は球形で多くの偽足を放射状に出している。小型の太陽虫で軸足が非常に長いのが特徴である。

コメント

植物プランクトンは少なかった。引き続き緑藻のディモルフォコックス ルナツス(その他の緑藻)が優占種となった。動物プランクトンも少なく、太陽虫類のアカントキスティスが最も多くなった。ピコ植物プランクトンは4,600細胞/mlと少なく、そのうち93%が輝橙色の種であった。

## 2. 見つかった主なプランクトンとその数(個体数)

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/1)
肉質虫類	<i>Acanthocystis chaetophora</i>	20

第 2 優 占 種		個体数 (個体/1)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	10

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

# 瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
生物圏担当

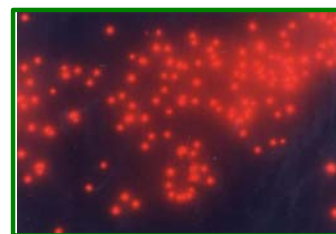
## (2) 植物プランクトン

平成19年11月12日

第33報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Chroococcus dispersus</i> *	10		
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	60	○	
(珪) <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>leneata</i>	10		○
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	20		
(緑) <i>Pediastrum duplex</i>	32		◎
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	1		
(緑) その他の緑藻	82	◎	
(藍) 藍藻綱	10	4.4	4.8
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	60	26.7	7.8
(珪) 珪藻綱	20	8.9	24.8
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	20	8.9	17.2
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	115	51.1	45.3
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	225	総体積	1.98E+05
種 類 数	8	( $\mu\text{m}^3$ )	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)  
ただし\*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位: %)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン  
1,000倍G励起で撮影

## (3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	11月12日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	4,600

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが $0.2\sim 2\mu\text{m}$ ( $1\mu\text{m}$ は1mmの1,000分の1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。